

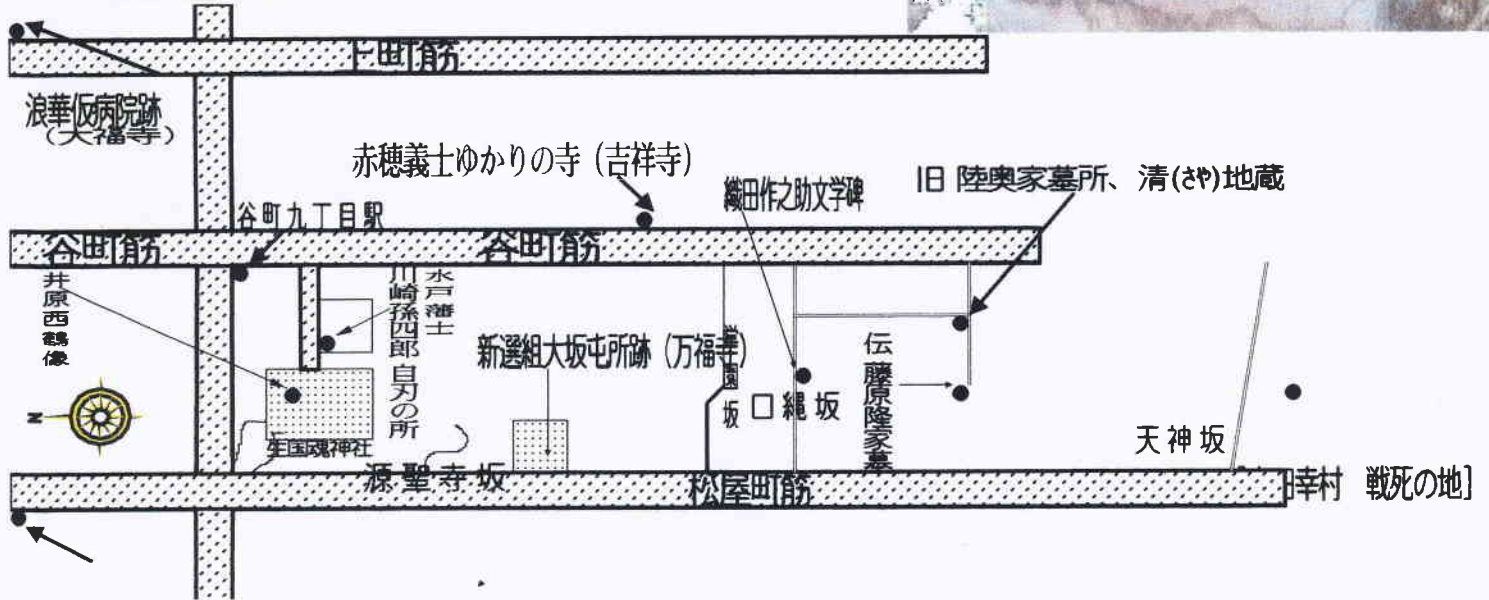
「大坂の史跡を訪ねて」

～夕陽丘周辺～ その4

連載4回目
おさ 長 谷 吉 治

①真田幸村 最期の地（安居神社）

前回の「陸奥宗光ゆかりの地」から「愛染さん」で親しまれている「勝鬘院(しょうまんいん)」(大阪市内最古の建造物である多宝塔は、豊臣秀吉が1594年に建立)を見ながら南へ進み、国道25号線に出る手前に安居神社という所があります。ここは1615年、大坂夏の陣の頃、茶臼山に陣取った、敵将 徳川家康に肉薄し、家康の首をあげようと後一步のところまで戦死した、豊臣方武将 真田幸村戦死の地でもあります。私が幼少の頃、NHK人形劇で「真田十勇士」が放映されており、その時初めて、真田幸村という名を知り、それ以来、興味を持っていましたが、坂本龍馬や織田信長と同じぐらい人気がある歴史上の人物です。徳川家康の本陣 茶臼山は、訪れてびっくりしましたが、本当に目と鼻の先、25号線を挟んでちょうど一心寺のすぐ南です。家康の本陣にこれほど迫ったのですから、ひょっとして家康唯一の敗戦、武田信玄との「三方ヶ原の戦い」を思い出し、生きた心地がしなかったかもしれませんね。



大和吉野遭難の地



南宗寺に伝わる徳川家康の墓『無銘ノ塔』

しかし映画などで真田幸村が徳川家康の首をあげるシーンなどが見られますが、まんざら作り話でも無いようです。

大阪府堺市南旅籠町にある臨濟宗 南宗寺(なんしゅうじ)に「伝 徳川家康の墓」が現存します。この南宗寺は、千利休をはじめ千家のお墓があるお寺ですが、家康が幸村に攻められ切腹を2回ほど試み、慌てて籠で逃亡中、槍で刺され、虫の息で堺にたどり着き生き絶えたとか…。そしてこの寺に埋葬され、その後は、古河藩主小笠原某が家康の影武者を務めたという説があります。

それを裏付けるものとして、元和9年(1623)7月に2代将軍徳川秀忠が、8月に3代将軍 徳川家光が、わざわざこの寺を訪れています。明治期に入ってから、旧幕臣 山岡鉄舟がわざわざここを訪れ、家康の墓の横に「無銘ノ塔 家康諾ス」と刻んだ石碑を残しています(南宗寺さん談)。まだまだ歴史は謎の部分が多いようですね。

② 戊辰の役招魂碑

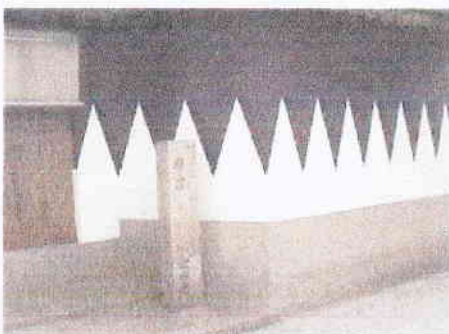
☞ さて、25号線を横断し、一心寺の境内に行きますと幕末関係の碑がひとつ建っています。『明治戊辰 伏見之役東軍戦死者招魂碑』がそうです。この碑は、戊辰戦争の時に戦没した徳川方武士の冥福を祈るもので、明治31年(1898)6月、在阪の旧幕臣の人たちによって建てられたものです。また、一心寺の外壁に「會津藩士墓地」の碑が建っています。



③ 赤穂義士ゆかりの寺（吉祥寺）

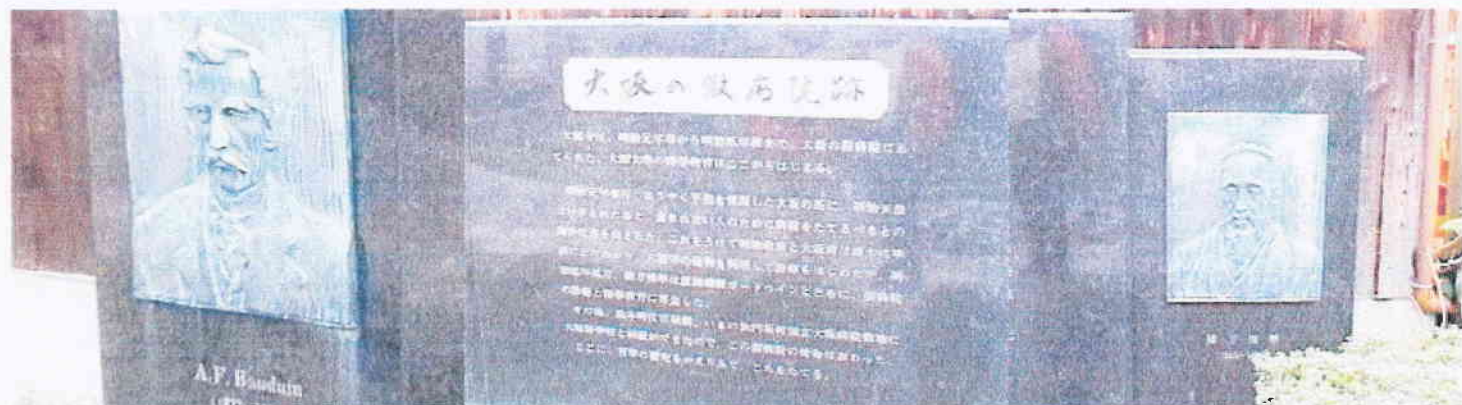
☞ この次は「陸奥宗光ゆかりの地」から東に進み、谷町筋に出てみましょう。谷町筋に出ましたら北へ少し進み、通り沿い東側に曹洞宗の吉祥寺(きょうじゆ)というお寺があります。このお寺は寛永7年(1630)に創建されており、創建当初の住職の出身地が播州赤穂だったことから、忠臣蔵で有名な浅野内匠頭の帰依をうけました。その縁で大坂における浅野家の菩提寺となり、参勤交代の際は必ず立ち寄ったといわれる由緒あるお寺です。さて、門をくぐって中に入り、すぐに「たくみのかみ四十七義士くらのすけの墓」という案内板が目に入ります。

それに従い右に行きますと、浅野内匠頭長距と大石内蔵助良雄以下赤穂義士四十七士の墓碑があります。赤穂藩大坂蔵屋敷(現在 大阪市中中之島4丁目常安橋付近)にあった山門並びに四十七士の木像などすべて戦災により灰燼と化してしまいましたが、墓碑だけは戦災を蒙りながらも現存しています。なぜか、幕末維新の中でも、この赤穂義士と何らかの関係した話が多く言い伝えられています。例えば、つい先日まで、京都国立博物館で『坂本龍馬展』が開かれていましたが、龍馬が暗殺された近江屋に「貼り交屏風(血染め屏風)」が展示されていたことは、ご記憶に新しいかと思えます。この屏風の右下に、吉良邸討ち入りの際、吉良上野介に一番槍を突き入れ、その首を介錯したという、赤穂義士はざまの間十次郎の書簡が貼られていました。なぜここに貼られていたのか、真相はわかりませんが、龍馬が赤穂義士に関心を持っており、それを近江屋新助に贈ったのでしょうか…? それから、新選組の制服は、赤穂義士の討ち入りに着用した装束をモデルにしたようです。また、池田屋で新選組に踏み込まれ闘死した大高又次郎は、赤穂義士大高源吾の子孫です。赤穂義士の史跡は、地元赤穂をはじめ、東京など各地に非常に多く、それだけ人気が高いことを表しているのでしょう。



④ 大阪大学医学部の源流 浪華仮病院跡（大福寺）

☞ 今回は、もう1か所ご紹介したいと思います。場所は、吉祥寺から谷町筋を600m北へ進み、谷町9丁目交差点を右に折れ千日前通りを東に進みます。上本町の交差点を左に折れ、上町筋をまた600m北へ進んでいただきますと、浄土宗 大福寺(上町4-1)があります。門の前に『浪華仮病院跡』という石碑が建っています。〔前々ページの地図を参照〕慶応4年3月、明治天皇の大坂行幸の際、御堂筋にある津村別院（北御堂）を行在所にし44日間も滞在されました。その時、病院の必要性を感じ大阪府に設立を命じました。その時の大阪府知事が、第2代目 後藤象二郎(土佐藩)、参与が小松帯刀(薩摩)です。どちらも龍馬ゆかりの人物です。財政難のためなかなか進展しませんでした。院長に緒方洪庵(蘭学者 1810-1863 通塾を開塾。塾生に、橋本左内。大村益次郎。福沢諭吉など)の次男 緒方惟準が、主任教授にオランダ1等軍医 ボードウィンと決まり、場所は学問研究に熱心だったここ大福寺に決まりました。しかし、なにぶんお寺なので「仮」病院として、明治2年2月にスタートすることとなりました。当時医学研修生が40人も集まり、午前6時～8時に院長 緒方惟準の講義。10時～12時まで入院患者の診察。午後から5時まで外来患者の診察。夜は再び院長の講義というハードスケジュールだったようです。しかし、その年の7月、現在 国立大阪病院がある地(中央区浪華)に移り大阪府病院と命名されました。移って間もなく、大村益次郎が京都で遭難し、10月に入院します。(この話は、『大村益次郎ゆかりの地』でご紹介したいと思います)



ボードウィン

大福寺境内にある記念碑

緒方惟準

⑤ 勤王の志士 池内大学 墓所（大福寺）

☞ 最後に、この大福寺境内に幕末の志士 池内大学の首塚があります。池内大学という人は、梁川星巖・梅田雲浜・頼三樹三郎らと並ぶ京都で活躍した儒者で、雅号を陶所といたしました。安政5年、水戸藩の京都入説に関わって安政の大獄により奉行所に自首し、江戸送りとなりますが、中追放という判決を受け死罪は免れました。しかし、同志には裏切り者扱いされたため退蔵という変名で大坂 尼崎町1丁目に隠れ住むようになりました。土佐藩 山内容堂が大坂藩邸に入った翌日 文久3年正月22日、藩邸の宴席に池内大学が招待されました。その帰り寓居前で刺客に襲われ命を落とします。難波橋に首をさらされ、切り落とされた耳は、脅迫状と共に京にある公卿の中山忠能邸と三条実愛(おねる)邸に投げこまれます。この池内大学を斬ったのが、当時人斬り以蔵と恐れられた土佐藩郷士 岡田以蔵と言われています。一時は仮病院として賑ったこの寺も、今は静かに時の流れを過ごしているように感じられました。



大福寺内にある池内大学の首塚

次回も幕末中心にそれ以外の時代の史跡も含めながらご紹介いたします。ご期待ください。